



飯山市・戸狩温泉スキー場における巡検の様子

(2016年5月22日 松原伽那 撮影)

地理空間学会ニュースレター

TOPICS

- ・第9回大会のお知らせ
- ・第9回大会巡検のご案内
- ・第22回例会の報告
- ・学会賞受賞者コメント(杉本興運)
- ・大会優秀ポスター賞受賞者コメント(竹下和希・名倉一希・小林 愛)
- ・学会からのお知らせ
- ・コラム「86年ぶりの飯山巡検」(橋爪孝介)

JAGS

第9回大会のお知らせ

地理空間学会では、第9回大会を下記の通り開催いたします。

【日 程】

2016年6月18日(土)：

- ・一般口頭発表，一般ポスター発表
- ・シンポジウム「増加する在留外国人とホスト社会としての日本—その動向と課題—」
- ・評議員会，総会（学会賞表彰を含む），懇親会

6月19日(日)：巡検「“TOKYO 2020” がもたらす水彩都市の空間再編—土地利用から紐解く港湾埋立の歴史とこれから—」（東京都江東区門前仲町～豊洲）

【会 場】

筑波大学筑波キャンパス（茨城県つくば市天王台 1-1-1）

- ・受付・研究発表・評議員会・総会：第1エリア 1D棟・1E棟 2階
- ・懇親会：第2エリア小食堂

【交 通】

(アクセス案内サイト)

http://www.tsukuba.ac.jp/access/tsukuba_access.html



○公共交通ご利用の場合

- つくばエクスプレス (TX) つくば駅下車, 「つくばセンター」バスターミナル 6 番乗り場から関東鉄道バス
- 「筑波大学中央」か「筑波大学循環 (右回り)」で「第一エリア前」バス停下車 (乗車約 10 分)
- 「筑波大学循環 (左回り)」で「松美池」バス停下車 (乗車約 10 分)
- 両バス停から徒歩約 3 分

(つくばセンター6 番のりば発バス時刻表)

http://kantetsu.co.jp/bus/timetable_files/center/06.pdf



○自家用車の場合

- 学園東大通り (県道 55 号) から筑波大学中央口に入り, 本部棟 1F 警備員室にて「本部棟南地区駐車場」への駐車申請してください。駐車場から徒歩 3~5 分で会場です。

【大会参加費】

○会員

- 一般: 500 円 院生・学部生: 無料

○非会員

- 一般: 1,000 円 院生: 500 円 学部生: 無料

【懇親会費】

- 一般: 4,500 円 院生・学部生: 3,000 円

【プログラム】

9:30~ 受付 (1D 棟 2 階フロア)

10:00~12:00 一般口頭発表 (1D201 教室)

12:00~13:15 昼休み・評議員会 (1E205 教室)

13:15~13:55 一般口頭発表 (1D201 教室)

14:00~16:10 シンポジウム「増加する在留外国人とホスト社会としての日本—その動向と課題—」
(1D201 教室)

16:10~16:50 ポスター発表コアタイム (1D 棟 2F ホール)

17:00~18:00 総会 (学会賞表彰を含む, 1D201 教室)

18:15~19:45 懇親会 (第 2 エリア小食堂)

※詳細は, 地理空間学会 HP の大会情報ページ
<<http://jags.ne.jp/archives/1201>> にて随時更新いたします。

第 1 日目のお問い合わせは地理空間学会集会委員会
<jags-meeting@geoenvironment.tsukuba.ac.jp>へお寄せください。当日緊急の場合には 029-853-4240 (集会委員会 森本) へお願いします。

【一般口頭発表】 10:00~12:00, 13:15~13:55 (1D201 教室, 交代時間を含み 1 発表 20 分)

10:00 佐野浩彬 (筑波大・院): 徒歩避難に伴う環境的影響を考慮した津波避難圏域の分析—静岡県浜松市西区を事例に—

10:20 吉次 翼 (慶應大 SFC 研)・矢ヶ崎太洋 (筑波大・院): 宮城県石巻市における復興事業の進捗と都市構造の変容

10:40 Ronald C. Estoque (筑波大): Spatial relations between land surface temperature and impervious surface and

greenspace density in Bangkok, Jakarta and Manila

11:00 澁谷和樹 (立教大・院)・杜 国慶 (立教大)・野津直樹 (㈱ナビタイムジャパン): APP データにみるインバウンド訪問者の流動構造

11:20 小林岳人 (県立千葉高): 地図学習教材としてのオリエンテーリング地図

11:40 久保倫子 (岐阜大)・駒木伸比古 (愛知大)・田中健作 (豊田工業高専): 岐阜市郊外住宅地における

高齢化・空き家化の進展と居住環境の実態
13:15 栗林 賢（北海道教育大）：JA による卸売市場の集約化とその背景—JA つがる弘前を事例に—

13:35 白坂 蕃（東京学芸大・名誉）・渡辺悌二（北海道大）：パミール北部カラニクル村における“遊牧的”牧畜

【シンポジウム】「増加する在留外国人とホスト社会としての日本—その動向と課題—」14:00～16:10 （1D201 教室）

S1 山下清海（筑波大）：在日外国人の日本社会への適応戦略の多様化

S2 金 延景（筑波大・院）：エスニック空間の形成とホスト社会との関係に関する考察—大久保コリアタウンを事例に—

S3 福本 拓（宮崎産業経営大）：現代日本における国籍取得に伴うエスニック・バウンダリーの溶解—空間的側面に着目して—

S4 片岡博美（近畿大）：在留外国人を交えた地域防災を考える—日系ブラジル人の事例から—

【ポスター発表】10:00～16:50 （コアタイム 16:10～16:50, 1D 棟 2 階ホール）

P1 小泉茜彩子（筑波大・院）：国際合併企業における企業空間の変容—サハリン 2 プロジェクトの運営企業を事例に—

P2 松山周一（筑波大・院）：マンガ家の場所の経験と描写について—北条司を事例に—

P3 橋爪孝介（筑波大・院）：伊勢志摩サミットにおける警備態勢の時空間展開

P4 金子紗恵（筑波大・院）：都市観光におけるコミュニティサイクル利用観光者の行動特性—東京ベイエリアを事例として—

アを事例として—

P5 渡辺隼矢（筑波大・院）：位置情報付き Twitter 投稿データを利用した観光行動の可視化—金沢市を事例に—

P6 高原祥樹（筑波大・院）：讃岐うどんブームにおけるフードツーリズムの形成・継続要因

P7 武智玖海人（筑波大・院）：栃木県日光地域における訪日外国人観光による地域性の創発過程

第9回大会巡検のご案内

6月19日（日）に大会巡検がございます（雨天決行）。

【巡検テーマ】

「“TOKYO 2020”がもたらす水彩都市の空間再編—土地利用から紐解く港湾埋立の歴史とこれから—」

【オーガナイザー】

猪股泰広・玉 小・佐野浩彬・曾 斌丹・中川紗智・本多広樹（筑波大・院）

【趣旨】

“水彩都市”とも称される東京のウォーターフロントは、

江戸時代以降現在まで続く埋立事業と並行して、地域の性格を変えながら、つねに東京の、そして日本の発展の最前線としての役割を担ってきた。そして今、4年後に控える東京オリンピックが駆動力となり、本地域は空間的な再編が進んでいる。

本巡検では、古い埋立地と新しい埋立地を訪れながら、ウォーターフロントという空間が2020年のその後へ、どのように変わっていくのかを考察する。



写真 石川島公園パリ広場から永代橋を望む
(2016年5月7日 松山周一 撮影)

【集合場所・時刻】

9:30 東京メトロ東西線・都営大江戸線門前仲町駅
3・4番出口方面改札口

【解散場所・時刻】

16:30 東京メトロ有楽町線・新都市交通ゆりかもめ線
豊洲駅

【ルート】

門前仲町駅→リバーシティ 21→佃島→月島→勝鬨橋
→築地場外市場（昼食）
→浜離宮→（水上バス）→お台場海浜公園→東京みなと館
→（ゆりかもめ）→豊洲

【参加費】

2,000 円（当日資料代、保険料、水上バス代込）

※その他の交通費、昼食代別

※本巡検の参加申込みは締め切りました。巡検に関するお問い合わせは本多<s1420978@geoenv.tsukuba.ac.jp>までお寄せください。

第 22 回例会の報告

地理空間学会では、第 22 回例会を下記の通り開催いたしました。参加者 30 名。

【題 目】

「都市変容における文化の役割の再考
ーパリ・ベルリン・東京の比較検討ー」

【オーガナイザー】

池田真利子（筑波大・非常勤職員）

【趣旨】

人口減少時代において、世界都市とも称される大都市は、国内外より多くの人口を吸収し、複雑な変化に直面している。こうした都市変容のダイナミクスにおいて、人間の文化的活動や文化経済活動はどのような役割を担い、これらはどの程度都市内部の変化と関わるのか、地理学内外において今再び注目が集まっている。そこで、本例会では、欧州の 2 都市（パリ・ベルリン）および東京における最新の研究成果の報告を通して、大都市における文化の役割を再考することを目的とした。



写真 例会の様子
(2016年6月2日 橋爪孝介 撮影)

【会場・日程】

BiVi つくば 筑波大学サテライトオフィス
（茨城県つくば市吾妻 1-8-10、つくば駅隣接複合施設
「BiVi つくば」2 階）

2016 年 6 月 2 日（木）18:30～20:00

【発表者・題目】

○池田真利子（筑波大・非）

「都市変容のカタリストとしての文化

ー西ベルリン・ノイケルン地区の街区活性化を事例としてー」

○荒又美陽（東洋大）

「パリの移民地区の変容ーグットドール地区における

文化と宗教ー」

○Monger, Christian（University of Leicester）

“Arts and Culture in Tokyo: The Role of Space and Architecture”

※例会後、つくば駅前のフランス料理店「ブラッセリー
ドゥ・プラ」で懇親会を開催しました。



学会賞受賞者コメント

地理空間学会 2015 年度学会賞の奨励賞を受賞された杉本興運会員から受賞のコメントをいただきました。

奨励賞 杉本興運会員（首都大）

このたびは地理空間学会奨励賞を授与してくださり、誠にありがとうございます。私の学生時代の研究成果が評価されたということで、大変嬉しく思っております。受賞対象となった研究の内容は、観光者の空間行動、観光資源分布の特徴、地理情報システムを応用した観光空間評価手法など、主に「観光」をテーマとした地理学および地理情報学の基礎・応用研究となっています。ここまで支えてくださったみなさまに感謝します。また、これからも評価される論文が書けるよう、研究者としてより精進していきます。

私が地理や観光を本格的に学びだしたのは、修士課程からです。日本が観光立国を国策として掲げ、これから観光産業の発展や交流人口の増加に資する戦略を本格的に進めようとする最初の時期でした。新しいもの好きの私は、そうした未開拓の世界に惹かれ、現在の所属先に入学し、菊地俊夫先生に師事させていただくことになりました。学部時代は都市計画や都市解析と呼ばれる分野を中心に学び、地理情報システムや空間分析に関係する卒業論文を書いたため、そうしたアプローチを活かした観光の研究をしたいと考えていました。修士課程では、地理情報システム

を応用した観光空間評価手法に関する研究を行い、その成果が国内や海外の学術誌に掲載されました。しかし、その頃から研究者および教育者としての将来を考える上で、応用研究だけでは限界がくると感じており、観光や地域の諸現象解明に関わる基礎研究も専門領域として身につけることが必要だと認識していました。そこで、自分のこれまでの研究アプローチを活かせる地理学の理論や方法論を本格的に勉強しました。その成果として、博士課程在籍期間中に今回の受賞対象となった観光資源や観光行動に関する論文を執筆するに至ったと言えます。

大学教員および研究者となった現在では、様々な自治体や観光協会との連携が増え、観光に関する研究により一層本格的に打ち込んでいますが、学生時代に学んだ地理学の理論や方法論は、そうした現場でも非常に役立っています。今後は、良いものを柔軟に自分の研究スタイルに取り入れ、地理学は勿論、周辺分野にまで広く評価される研究を行っていけるよう努めていきたいと思っています。今後どうぞよろしく願いいたします。



大会優秀ポスター賞受賞者コメント

第8回地理空間学会大会（2015年・筑波大学）において優秀ポスター賞を受賞された竹下和希会員、名倉一希会員、小林 愛会員から受賞のコメントをいただきました。

優秀ポスター賞 竹下和希会員（筑波大・院生）

この度は、ポスター発表「長野県出身大卒者のライフコースとその規定要因」で、優秀賞を頂き、大変光栄に思います。この研究は私の卒業研究であり、長野県内の高校卒業生が、大学進学・就職を機に、どこへ移動するのか明らかにしたものです。大学進学率が上昇する現代において、大卒者がどのような居住地選択をするのか明らかにすることは重要であり、将来の人口政策にも影響を与える課題だと考えています。私は、同窓会名簿の分析と電話調査の二つを行いました。慣れない調査の中、対象者に電話で聞き取りを行った際には、思ったように話が聞けず、時にはオレオレ詐欺に疑われることもありました。そんな中、指

導教員の先生をはじめとした先生方のご指導や、仲間の励ましもあり、なんとかデータを集めることができました。

ポスター発表の場で、集めたデータについてお褒めの言葉をいただくことや、賞をいただけたことは、私にとって研究活動への大きな自信となったように思います。その一方で、個人の属性に着目し、詳細なデータを分析する必要性や、図表のわかりやすい表現方法など、今まで気づかなかった課題点を、多くの方に教えていただきました。修士論文では、今回ご指導いただいたことを生かし、質の高い論文を書けるよう努力してまいります。

優秀ポスター賞 名倉一希会員（筑波大・院生）

この度は「群馬県におけるスキー場経営体の変化―スキー観光衰退期に着目して―」に対して第8回地理空間学会ポスター賞を賜ったこと、深く御礼申し上げます。

当ポスターは1993年までのスキープーム期後、急衰している日本のスキー観光をテーマに群馬県内でのスキー場経営体の変化を分析したものです。ここ約20年の日本のスキー観光の衰退は急激なものであり、スキー場を中心とした聞き取り先においても話題全体がデリケートに扱われました。厳しい経営が続くなか、2015年度の暖冬は群馬県内のスキー場ほぼすべての営業に影響し、例年より2週間以上早く閉鎖するスキー場もあったようです。

どうしても暗い話題が多い研究対象ではありますが、一方で、聞き取り先のスキー場の方から聞いた「スキーはブーム的で富裕層の娯楽にみられがちだが、斜面と雪がなければ成立せず、日本でも100年以上の歴史がある伝統的な積雪地域の移動技術かつスポーツ。」という言葉に日本のスキー観光の可能性を感じました。近年のインバウンド客

が日本の雪と斜面を求めるのはその象徴かもしれません。客観的な視点ではありませんが、スキー観光を学位論文で扱う者として、また現代において数少ない心からスキーを愛する学生スキーヤーとして何とか日本のスキー観光が存続、発展することを願うばかりです。

さらに先の言葉は研究においてもスキー観光を地理学からみる意義を見つけるきっかけとなりました。スキー場やスキー観光地について調査すればするほど、集客圏や積雪など多くの事象に幅広い地理的条件が深く関わっていると気づきました。地理学を学びながらグレンデを滑っていると、「スキーは地理の塊」とまで思います。今後も「どこに、どのようなスキー観光地が広がっているのか。」と「なぜそこにそのスキー観光地はあるのか。」といった地理的な見方や考え方を軸にスキー観光地を見続けていきたいです。

本研究は卒業論文の一部を発表したものでした。調査における聞き取りの質も量も1年経って振り返ると到底納

得できるものではなく、統計の分析も反省点が多く挙げられます。修士論文でもスキー観光地をフィールドにする予定ですが、現在の研究室で得られた知見、技術を最大限に活

かし地理学でスキー観光を研究する意義を大切にしながら研究をしていく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻よろしくお願いいたします。

優秀ポスター賞 小林 愛会員（筑波大・院生）

第8回地理空間学会大会におきまして、学会ポスター賞をいただくことができ、大変嬉しく思っております。本研究は、私の地元新潟県にて行われている「片貝まつり」を対象とし、祭りの形態と担い手の時代変化、祭りが地域と地域住民に与える影響、そして祭りが現在まで存続してきた要因について考察したものです。

片貝町は三尺玉発祥の地として知られています。その地で行われる片貝まつりは、いまや有名となった正四尺玉の打ち揚げのほか、伝統行事も「筒引き」「玉送り」と花火にちなんだものとなっています。私は、幼い頃から日本三大花火の一つである長岡花火を見て育ってきたため、花火

に対して強い愛着があります。ぜひ自身の好きなものを研究テーマにしたいという思いから、花火をとりまく人々に着目した研究を行うことになりました。その中でも、地域住民が主体となって現在まで運営され続けている片貝まつりを対象とすることで、祭りや地域住民のかかわりを論じることができると考え、テーマ設定をした次第です。

このコメントを読んでくださっている皆様は、花火大会に足を運ぶことはありますでしょうか。日本の花火技術は非常に高く、世界に誇れる文化の一つであると考えています。私の研究を通して、一人でも多くの方に日本の花火文化に興味を持っていただければ幸いです。

学会からのお知らせ

<会計委員会からのお知らせ>

1. 会費納入のお願い

多くの方々から会費の納入をいただいておりますが、若干名、過年度の会費納入がお済みでない方もいらっしゃいます。未納の方は、「地理空間」第8巻2号に同封した振込用紙でお支払いください。納付したか不明な方や振込用紙をご希望の方は、事務局までお問い合わせください。大学を通じて電子振込みをされる場合には、必ず氏名と所属先の明記をお願いいたします。

〔年会費の振込先〕

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00120-5 口座番号：779957

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ）ロイチキュウテン）

預金種目：当座 口座番号：0779957

受取人名：チリクウカンカ” ツカイ

(ウ) 年会費

一般会員 4,000 円

大学院生会員 2,000 円

学生会員 1,000 円

2. 「地理空間学会学術基金」の募金について

「地理空間学会学術基金」の募金活動について、会員の皆さまの一層のご理解とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

〔地理空間学会学術基金の内容〕

○名 称：地理空間学会学術基金

○目 的：地理学の優れた研究者を育成することを目的として、その研究活動の充実を図るための資金として活用する。

○募集対象：本学会の活動理念を理解し、本寄付の趣旨にご賛同いただける方。

○ご依頼額：1口2万円（何口でも可能です）

[振込方法]

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00150-3 口座番号：707452

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（セ）ロイチキュウテン）

預金種目：当座

口座番号：0707452

受取人名：チリクウカンカ” ツカイカ” クシ” ユツキン

※ 基金への寄付をいただいた方のお名前は、機関誌「地理空間」やホームページ等に掲載させていただきます。お名前の掲載をご希望でない方は、「匿名希望」とご記入ください。不明な点は、事務局までお問い合わせください。

<編集委員会からのお知らせ>

1. 次号以降の投稿について

機関誌「地理空間」の原稿は随時受け付けており、査読を経て受理された論文から順次掲載して参ります。内容は最新の論争から時事性、トピック性の高いテーマ、丹念な調査に基づく活きのよい事例研究まで幅広く受け付けております。会員の皆様の活発な投稿をお待ちしております。投稿規定や執筆要領については、地理空間学会ホームページをご覧ください。

2. 定期購読のお願い

本学会の活動を知っていただくため、会員の皆さまの研

究室や大学・高校の図書館等での「地理空間」の定期購読をご検討いただけますようお願い申し上げます。ご購入いただける場合には、学会事務局までお知らせください。

3. 「地理空間」掲載論文のリポジトリ等への掲載について

掲載誌が刊行されてから半年を経過した場合には、大学等の学術リポジトリや著者本人のホームページ等へ自著の論文の掲載を認めます。掲載論文の電子ファイルが必要な方は、学会事務局までご連絡ください。



コラム「86年ぶりの飯山巡検」

橋爪孝介（筑波大・院生）

ニュースレター第21号で紹介した「大塚の地理学」の特色として第一にフィールドワークが挙げられます。その基礎となる教育として、泊まり込みの巡検が東京文理科大学・東京教育大学を経て現在の筑波大学に至るまで継続されています。

筑波大学大学院におけるフィールドワーク教育は松井・兼子（2014）で詳述されているように、1週間の合宿形式の巡検を1年ないし2年かけて行い、『地域研究年報』に成果を掲載するというものであり、全国の地理学教室の中で稀有な教育実践を行っています。高等教育におけるその源流は、1929年に開学した東京文理科大学で開講された長野県善光寺平・飯山平における巡検にさかのぼることができます。

主宰の田中啓爾によると、1929年の秋、教員は田中と榊田一二助手の2名、学生は東京文理科大学地理学科1年生の5名が参加し、飯山町（現・飯山市）に1週間合宿して調査を行ったといい（田中、1933）、現在の筑波大学大学院で行っている巡検と全く同じ形式です。巡検の様子はこれ以上の記述がないので不明ですが、研究テーマは中野盆地の集落形態（青野壽郎）、信州北部の畑作（安達茂夫）、飯山周辺の物資流動（蛭田浩一郎）、飯山付近の断層地形（三野與吉）、冬季の副業としての製紙・畳表生産（榊田一二）で、その成果は『大塚地理学会論文集 第1集』に採録されています。

その第1回巡検から86年が経過した2015年の秋と2016年の春、筑波大学大学院の地誌学野外実験として再び飯山

が巡検のフィールドに選ばれました（表紙写真）。第1回巡検当時、急速な桑畑化が進み畳表生産の盛んだった常盤地区は、現在ではアスパラガスや常盤ごぼうの生産で特徴付けられるようになる（写真1）などの変化があった一方で、本町商店街は往時も現在も商業中心として機能している（写真2）など、変化がみられない側面もあります。偉大な先輩方が調査した当時に思いを馳せながら、飯山をフィールドとしたオリジナルの調査・研究成果を学術論文と



写真1 常盤地区の畑作景観
(2016年5月22日 松山周一 撮影)

して、執筆していききたいと思います。

【文 献】

田中啓爾（1933）：善光寺平及飯山平に於ける小研究。大塚地理学会論文集，1，432。

松井圭介・兼子 純（2014）：大学院におけるフィールドワーク教育の実践－筑波大学人文地理学・地誌学教室の事例－。人文地理学研究，34，107-125。



写真2 本町商店街の六斎市
(2016年5月26日 橋爪孝介 撮影)

編集後記

今年も梅雨がやってまいりました。すっきりしない天気が続き気分が高揚しづらい時期ではありますが、第一次産業にとって、来たるべき盛夏に備える貯水時期として重要な季節です。そして地理空間学会にとっては大会の季節です。本年度の大会は6月18日に筑波大学筑波キャンパスにて、大会巡検は6月19日に東京のウォーターフロントにて開催します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

ニュースレターでは学会に関連した情報を適宜掲載していきますので、掲載すべき情報やご要望がございましたら、事務局までお寄せください。最新の情報は学会ホームページで随時更新しております。本会では、会員間の情報交換の手段として、メーリングリスト（jags-ml@geoenv.tsukuba.ac.jp）を開設しております。すでに多くの方にご参加いただいておりますが、まだ登録されていない方でメールアドレスをお持ちの方は、ぜひご参加ください。

地理空間学会ニュースレター 第26号

発行日：2016年6月11日

発行所：地理空間学会事務局

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学生命環境系地球環境科学専攻内 地理空間学会事務局

TEL/FAX 029-853-6873

E-Mail geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp

URL <http://jags.ne.jp/>